

## ⑯ 実用新案公報 (Y 2)

昭57-58332

⑮ Int.Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑰ 公告

昭和 57 年 (1982) 12 月 14 日

F 01 P 1/06

6477-3G

Vベルト等

外気等へ

(全 3 頁)

## ⑱ 動力農機における冷却装置

審 判 昭54-6378

⑲ 実 願 昭49-20846

⑳ 出 願 昭49 (1974) 2月22日

㉑ 公 開 昭50-111535

⑳ 昭50 (1975) 9月11日

㉒ 考 案 者 首藤矩夫

松山市土居田町13区 588

㉓ 考 案 者 五十嵐高

松山市土居田町13区 588

㉔ 考 案 者 今西克己

松山市土居田町13区 588

㉕ 考 案 者 山本武恵

松山市土居田町13区 588

㉖ 考 案 者 岡崎俊恵

松山市土居田町13区 588

㉗ 出 願 人 井関農機株式会社

松山市馬木町 700 番地

## ㉘ 引用文献

実 公 昭44-13057 (JP, Y1)

## ㉙ 実用新案登録請求の範囲

強制空冷用冷却風吸入口 12a を備えたエンジンカバー 12 で羽根 14 付のフライホイール 13 が  
 25 板れ、安全カバー 11 で原動ブリー 6・主軸ブリー 8 およびこれらに掛け渡された伝動ベルト 9 の全周が被われ、この安全カバー 11 は、原動  
 ブリー 6 側と主軸ブリー 18 側とに前開口部 11a と空気導入口 15 とを備えていて、羽根 30  
 14 の回転で空気導入口 15 から吸い込まれた空気が伝動ベルト 9 および原動ブリー 6 のそばを  
 通つて前開口部 11a からエンジンカバー 12 内  
 に吸い込まれるように、強制空冷用冷却風吸入口 35  
 12a に前開口部 11a を合せて設けられている  
 ことを特徴とする動力農機における冷却装置。

## 考案の詳細な説明

この考案は、耕耘機等の動力農機における伝動ベルトの冷却装置に関する。

従来の動力農機では、エンジンとギヤケース間  
 5 を V ベルト等の伝動ベルトを使用して動力伝達を行う場合、該伝動ベルトの外周及び外側面は通常カバー体で被覆していたが、内側面を開放していた為、作業者がこの開放部から手指を挿入した場合回転している伝動ベルトと伝動ブリー等により  
 10 手指を切損する事故を引起していた。この為安全面から伝動ブリー・伝動ベルト等の回転体は、全面をカバー体で覆うようにして手指が挿入できないような構成となつてきた。

しかし、このように全面をカバー体で覆う  
 15 になると、エンジンからの伝導熱により温度上昇する原動ブリーが駆動抵抗の増減により、伝動ベルトとの間で滑り摩擦を生じると、カバー体内の空気の流通がないため途端に伝動ベルトの温度が上昇したまま下がってこなくなる。

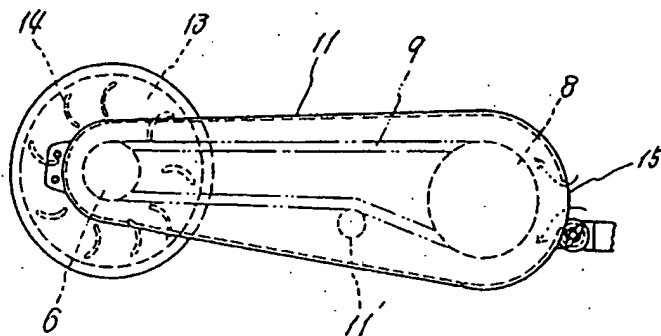
20 この温度上昇に伴ない伝動ベルトが延び、これによりさらに伝動ベルトのスリップが増大して過熱の恐れを有していた。

このような不具合を解消するため、本願考案は次のような技術的手段を講じた。即ち、強制空冷  
 25 のエンジン 4 において、エンジン 4 から機体 2 の主軸 7 へ動力の伝達をする原動ブリー 6・伝動ベルト 9・主軸ブリー 8 からなる伝動装置の前  
 後側面・上下側面および左右両側面を被覆する安全カバー 11 における前開口部 11a を、エンジン  
 30 ンカバー 12 の冷却風吸入口 12a に連通したことを特徴とする動力農機における冷却装置の構成とした。

次に、図面に示す実施例に基づいて、この考案を説明すると、1 は動力農機で、この動力農機 1  
 の機体 2 には、前方に突出するように搭載枠 3 を  
 35 取付け、この搭載枠 3 にエンジン 4 を搭載し、エンジン 4 の原動軸 5 には原動ブリー 6 を取付け



第2図



第3図

